

# 地域住民による過疎地域の 存続と地域活性化の取組

～始めよう、未来のために！～

【組織名】 農事組合法人 山室  
(平成17年9月設立)

【所 在】 長野県伊那市

【農業地域類型】 標高900m 中山間農業地域

【組合員数】 57+1 法人

【品 目】 水稻、小麦、蕎麦、野菜 複合経営

発表者：農事組合法人山室  
代表理事 大塚 浩男

平成29年度 農林水産省「豊かな村づくり全国表彰事業」 農林水産大臣賞

平成30年度 長野県知事表彰 産業功労団体

平成30年度 伊那市表彰 産業功労

平成30年度 JA長野県 優良組合員組織表彰

平成30年度 第5回「ディスカバー農漁村の宝」 関東農政局管内選定

令和 4年度 山室棚田「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に選定



## 地域の（伊那市高遠山室地区）概況

コヒガンザクラで知られる高遠城址公園の東北約4 km、高遠湖に清流を注ぐ山室川沿いの県道211号（高遠芝平線）を車で約15分ほど

山室地区は、伊那市の東部に位置し、三峰川の支流山室川に沿って長く伸びる美しい棚田を有している中山間地域である。

農事組合法人 山室

標高約900m・平均傾斜12度の地に7集落で構成されている典型的中山間地域

猪鹿柵

耕地面積40ha  
うち水田34ha

昭和50年代から酒米を生産する稲作主体の地域

10 km  
5 マイル

500 m  
2000 フィート

画像 ©2013 Cnes/Spot Image, DigitalGlobe, Landsat

# 法人設立の経緯

## 人力から機械力・単独から集団

中山間地域の耕作条件不利を克服

圃場基盤整備 24ha/H7～H11

有害鳥獣被害防止対策

中山間地域農業直接支払事業導入/H12

母体となった組織

山室営農研究会/S50

水稻関連・作業受託

山室水稻耕作組合/H3

酒米栽培・販売管理

山室地区「明日の農業を考える会」  
集落営農ビジョン作り/H13年  
集落農家全戸の56%が現状に危機感  
⇒地域の担い手が必要

地域営農組織設立検討会/H17  
“特定農業団体”より“法人化”  
経営の透明化  
農地集積・経理の透明化

農業環境の基盤を築くため、  
当初は農地を荒らさないことを主眼とし、水田で酒米を主力とし他にコシヒカリ、小麦、蕎麦の栽培等土地利用型の品目を主体に耕作。  
農家戸数45戸の内参画農家40戸  
(参画率89%)

**農事組合法人山室設立/H17. 9**





# 農事組合法人山室 業務構成

## 事業

### 生産

水稻（酒米・コシヒカリ）・小麦・蕎麦  
野菜（ブロッコリー・スッキーニ・ジューズトマト 他）

### 作業受託

水稻関連機械作業

刈取乾燥調製

### 消費拡大活動

都市部との交流（市民農園管理運営）

地酒作り参加

代表

監事  
2名

理事会  
理事7名（1名は女性）  
事業経営計画推進

総務担当

農地利用権設定・作業受託管理  
事業推進、記録等の総務

営農

園芸担当

野菜類営農計画推進

穀物担当

水稻・蕎麦・麦等穀類営農計画推進

機械

整備担当

機械設備保守メンテナンス

OP・安全管理

OP稼働等の計画・安全教育  
新技術導入・作業合理化推進  
（スマート農業）

財務担当

財務管理・税務経理

組合員数57人+1法人（JA）  
（令和6年）

# 営農状況（令和6年実績）

## 水稲（地元酒蔵契約栽培）

### 減農薬栽培

酒造好適米	美山錦	1, 229 a
	ひとごち	85 a
	コシヒカリ	132 a

### 無農薬・無化学肥料（環境保全型農業）

美山錦	60 a
山恵錦	42 a
コシヒカリ	26 a

小麦	69 a
蕎麦（夏、秋二毛作）	270 a

## 園芸

ジューストマト	12 a
ブロッコリー（春）	42 a
ズッキーニ	69 a

## 作業受託（令和5年実績）

面積	490 a
乾燥調製	41, 862 kg（生粳）

水田オーナー	1 a／区画
	45戸 64区画

## 機器・設備実装

### 耕作機器

トラクター	50ps級（ロータリー含む）	3台	ロータリーシーダー	1台
ライムソア		1台	田植機6条側条施肥	3台
ブロードキャスター		1台	自脱型コンバイン 4条	3台
ハンマーモア		1台	汎用コンバイン	1台
ウイングハロー		3台	乗用管理機マルチャー	1台
畦塗機		2台	ブームスプレー8.5m 28ノズル	1台

### 乾燥調製施設

遠赤外線乾燥機	50石	3基	粃摺り機	5インチ	1基
	30石	2基	色彩選別機		1基
保冷タンク	50石	1基	米選機		2基
運用状況監視装置（カメラ付き）		1式	フレコン設備		一式

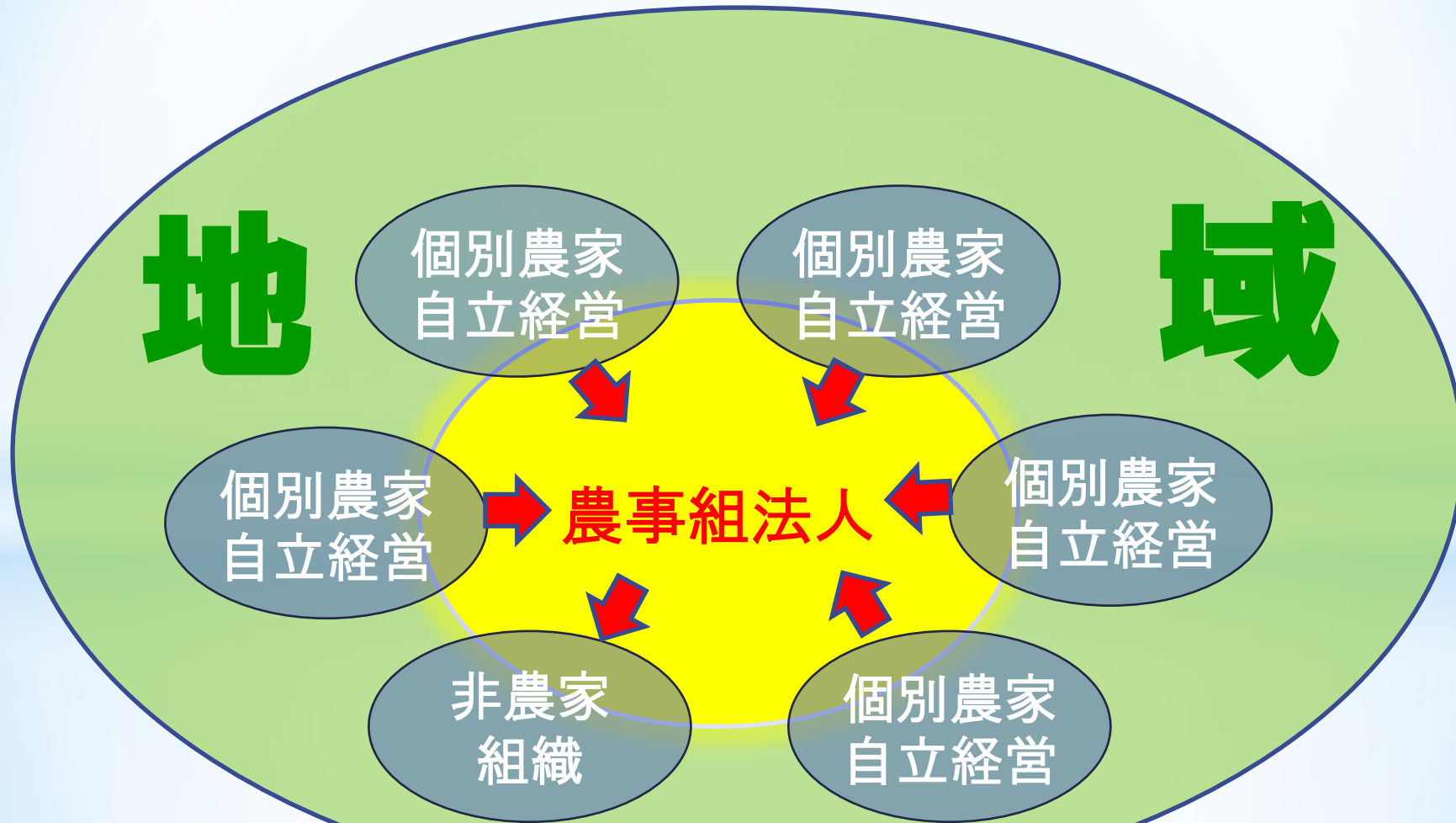
### ICT設備・スマート農業機器（伊那市スマート農業専門委員会実証試験参加）

水田センサー（地温・水温・気温・湿度・水位）	20基	自動給水栓	4基
水田自動除草機	1台	ラジコン草刈り機	1台
農地管理システム			

### 居住施設（空き家対策として）

古民家 1軒 （当面は事務所、研修、研修者宿泊所として利用）

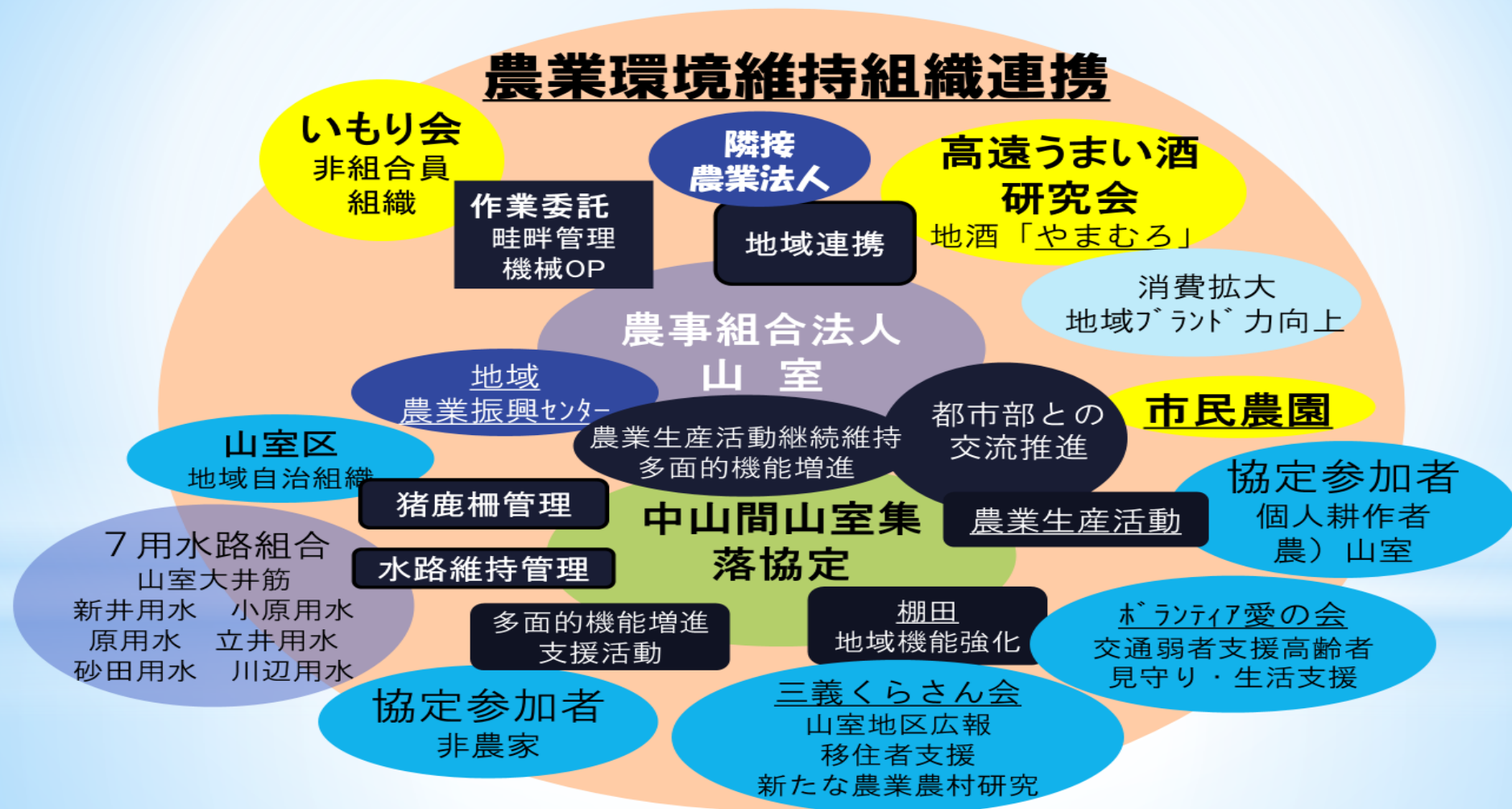
## (農) 山室の組織構成と理念



**自分たちが農業を続けていくため、住み続けるために地域を守り活性化して行く!**

## 特徴ある活動：組織連携について

**連携活動の概要：** 法人では、農地貸借や作業受委託による水稻や野菜の生産以外に、市民農園（ふれあい農園）の開設、さらには法人産の酒米を使った地酒を**地元酒造会社**と商品化するなど**地域資源の活用**や様々な団体・組織と連携することで新たな取組を行い、集落農地の維持保全、都市農村交流や地域経済活性化に貢献。





# (農) 山室の農業生産

## 水田：環境に配慮した栽培とスマート農業の導入

無農薬・無化学肥料



スマート農業機材の活用







平成 29 年度  
産地パワーアップ事業  
乾燥調整施設  
農事組合法人 山室





## 園芸品目の導入：女性農業者主体に栽培

当初は、米麦を中心とした経営であったが、麦の後作としてブロッコリーやズッキーニ・ジュース用トマトなどの新規作物の導入を行った。また、これらの野菜栽培及び試験栽培は女性会員からの発案で始められ、平成29年度には**園芸作物営農担当として女性理事**が誕生するなど、女性農業者が主体となり、当法人の経営安定に寄与する作物として取り組んでいる。





# 地域ブランドの確立への取組

## 酒米による6次産業化への取組支援

地場農産物を使った6次産業化への取組みとして、地元酒販店で組織する「高遠旨い酒研究会」と地元酒蔵と連携し、地酒(商品名やまむろ)づくりに取組んでいる。当法人が、標高900m以上の**水田約10ha**において、**酒米(美山錦・ひとごち)**を減農薬により栽培し、地元酒蔵で醸造されるこの地酒は、山室産の米を使い、高遠の蔵元で醸造し、高遠の酒屋だけで売る真の地酒として人気も高く、ブランド化・消費拡大に寄与している。



### 高遠ブランド「やまむろ」誕生

平成15年

「高遠旨い酒研究会」発足。

高遠町の酒屋さんが立ち上げた会で、高遠産の米を使って、高遠の蔵元で醸し、高遠の酒屋だけで販売する「地酒」を企画。

平成16年

酒造好適米「ひとごち」の栽培を農事組合法人山室に依頼。

平成17年12月

純高遠産ブランド地酒

「純米やまむろ」新発売。





# 地域、都市住民との交流事業

## 水田（ふれあい農園）を活用した体験・交流





# 地域ぐるみでの農地の環境整備①

## 山室区

中山間山室集落協定  
地区単位で行われる  
猪鹿柵管理作業



## 各組織と連携した作業

## 水利組合

水路の井浚い  
草刈・パトロール等  
管理作業



## 農家組合

地域振興センター  
土手草焼き





## 地域ぐるみでの農地の環境整備②：畦畔の草刈り





やまむろ  
**山室の棚田**

所在地：伊那市高遠町山室

面積：26.9ha

棚田枚数：238枚

伊那市高遠町山室集落は、高齢化、担い手農家の減少、小区画・不整形の田などの課題から、耕作放棄が進んでいた地域でした。

その後、地元有志のメンバーを中心に、農村として地域の維持を図るため、「農事組合法人山室」が設立されました。

この地域の約8割の田んぼでは、“ひとごち”や“美山錦”、“山恵錦”などの酒米が生産されており、それらを原料に縣仙醸が作った日本酒「やまむろ」は地酒としての人気も高く、高遠町の酒屋のみで販売されています。

また、棚田オーナー制度にも取り組んでおり、「消費者と生産者が互いに顔が見える関係」を構築し、各イベントを通して農村と都市住民との交流の場を提供しています。





# 空き家対策も兼ねた 法人事務所開設

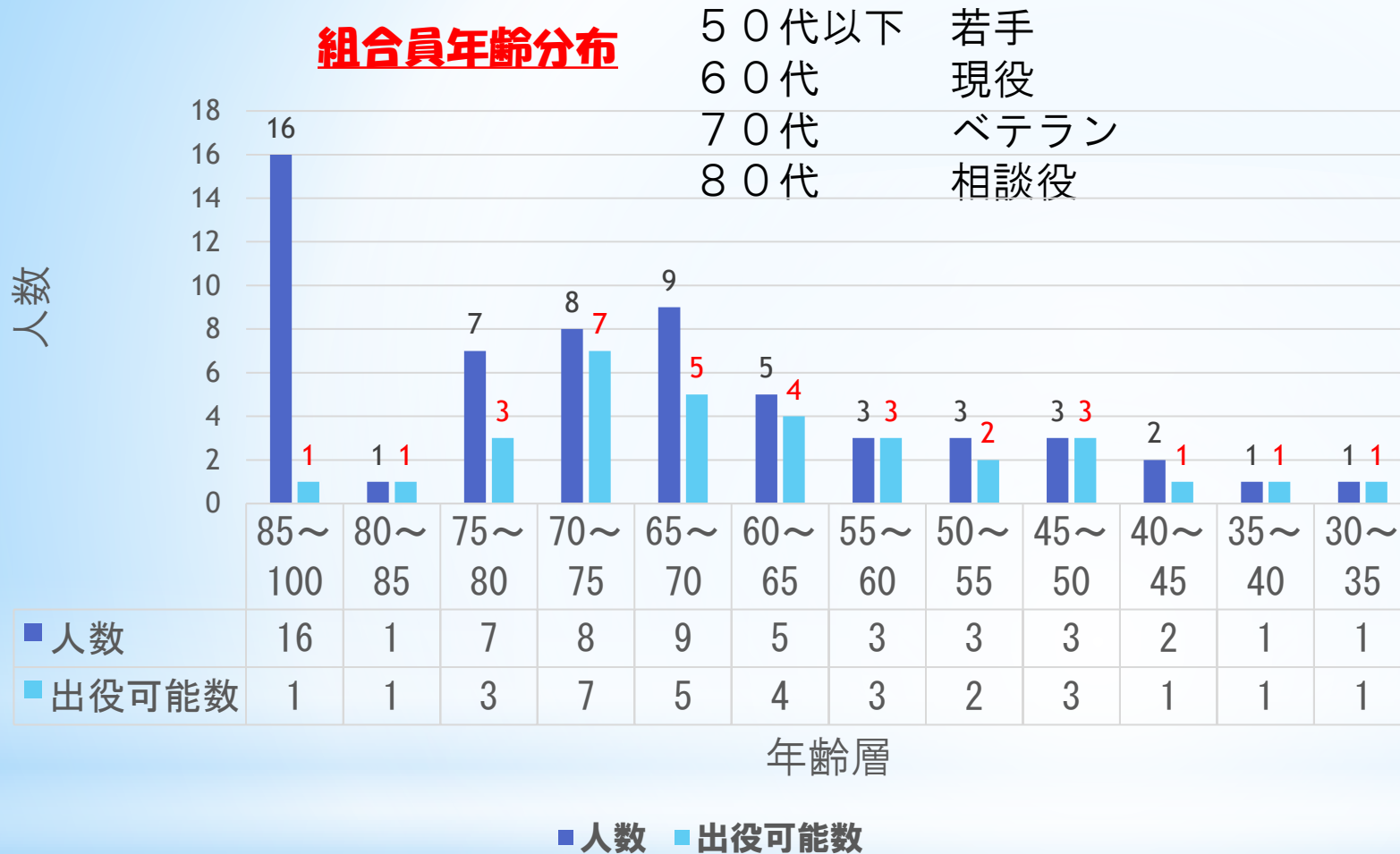


事務所  
研修生宿舎  
地域コミュニティの活性化  
ゲストハウス  
新規就農者 移住住宅



# 担い手対策について

## 組合員年齢分布



50代以下 若手  
60代 現役  
70代 ベテラン  
80代 相談役

## 組合員の減少

H26年度までは、水稻と転作作物主体の農業農業者の高齢化の進展

## 高齢化のためリタイヤ>新規加入農業者

後継者の育成確保が急務となってきた

## 組合増加推移

赤は新規就農者

	地元		Iターン		
年	男性	女性	男性	女性	計
H17	32	1			33
H18	2				2
H19			1		1
:					
H24	2		1		3
H25					0
H26					0
H27					0
H28	1				1
H29	2	1			3
H30			1+2	2	5
H31	1				1
R 2			1	1	2
R 3				2	2
R 4	2		1		3
R 5	1				1
計	43	2	7	5	57

# 組合増加推移

組合増加推移 赤は新規就農者

H27年～園芸作物の  
試験栽培の開始  
ブロッコリー  
ズッキーニ  
ジューストマト

園芸担当役員  
創設

練習期間

H30年～圃場規模拡大

年	地元		Iターン		計
	男性	女性	男性	女性	
H17	32	1			33
H18	2				2
H19				1	1
:					
H24	2		1		3
H25					0
H26					0
H27					0
H28	1				1
H29	2				3
H30			1+2	2	5
H31	1				1
R 2			1	1	2
R 3				2	2
R 4	2		1		3
R 5	1				1
計	43	2	7	5	57

新規就農者

園芸要員

# 確実に減少して行く労働力、新規就農者の受け入れ

地元定年帰農者  
(農業経験者)

I・Uターン者新規就農者  
(経験無し・有り) [Iターン.pptx](#)



担い手後継者

新規就農者の里親的役割 ⇒ 農業者としての自立を支援

農地・機械・技術・制度利用についての支援

地域・JA、農業関連団体との関わりについてのアドバイス

Iターン者（新規就農者）2名が組合員として在籍

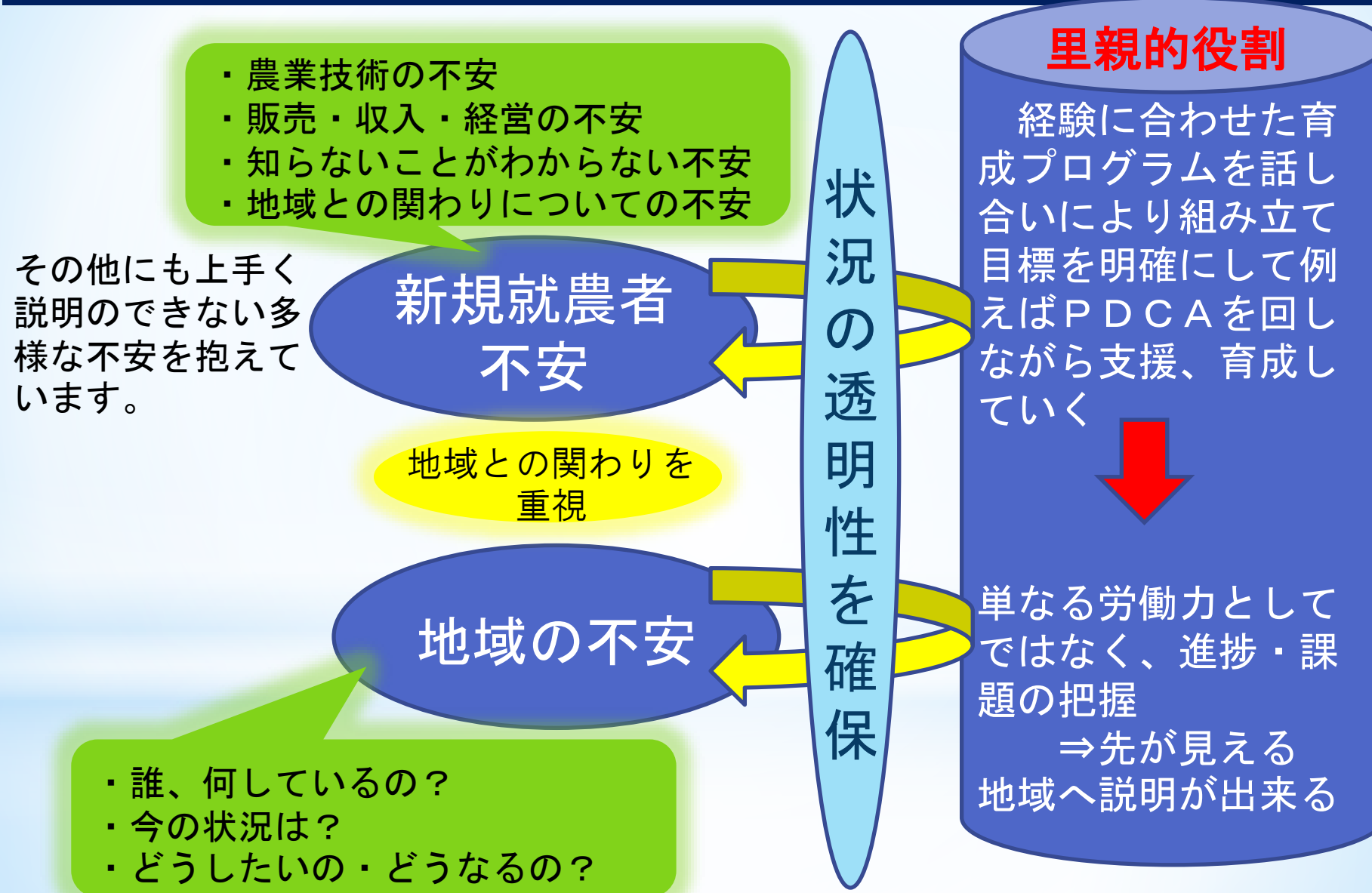
新規就農時の問題点、悩みや不安が理解でき適切なフォローが可能

・ ・ かな

経験に合わせた育成プログラムを話し合いにより組み立てる。



# 農業を0から始める時の不安





# 地域と移住者の特性

山室のような比較的山深い中山間地域では  
農地農業を守ること＝農村としての地域、集落を維持し継承していくこと

農産物の収量収益性を追求する農業も必要ですが、そればかりではなく地域の維持存続を、  
農業を手段として農村という形で実現して行こうという取り組みが重要

その背景には、

- ・ 高齢化と離農の進行、地主不在農地の増加（農地集積の障害）
- ・ 地元農家は代替わりではなく、移住世帯との入れ替わり（住民の入れ替わり）
- ・ 農業的には条件不利地で、生産性・収量だけでは経済は成立しない。
- ・ 就農目的での移住者は稀

上述した内容だけでは大変不都合な所に思えますが、これに対して

- ・ 豊かな自然（清らかな水源と生命を育む山河、四季折々の見事な景観）と、農業により作られた美しい農地と心地よい住居環境が保たれた農村という、他には無いこの地域のみが備える高ポテンシャルな特性1つで、全てを補うことが出来るのが山室地区です。（移住者にとっては）就農目的の移住は稀ですが、**田舎暮らし等ライフスタイルを優先する方々、自然の豊かさ等の地域環境に優位的な価値を認める方々が近年多く移住して来られるようになりました。**



# ＋農の選択

田舎暮らしを目的として農業以外の「X」（何か）を生業とする

比較的若い子育て世代の移住増

豊かな自然環境を求めて田舎暮らし＋テレワーク、都会との2拠点生活など

多様な形態の移住者が今後増えていく可能性

住民の入れ替わりが加速することも想定できる

そのような方々、或いは子育て世代の主婦（お母さん）たちに、  
空いている時間を利用して地元で働いてもらう、という誘いをかけます。

生業Xの足しになる副業？（「X＋？」）に農作業を選んで頂く

これが＋農です

（農＋X  $\neq$  X＋農）



本業 副業

X + ? ← + 農

選んでもらえる  
切っ掛け作り

誰でも手軽に始められる農作業  
環境にやさしい農業



# ＋農のきっかけ作り

経験が無くても容易に始められ、かつ手作業が多い園芸作物栽培を導入

環境志向が強い移住者に、有機農業、自然栽培農業等の環境保全型農業

体験の場を提供し、研究、実践を通して

## ＋農の広がり

# もう一つの＋農

## 地区内外組織との連携

地域には複数の農業用水路と地域全体を囲むように猪鹿柵が設置されています。

これらは昔から受益者組織が管理していた。

その頃は、地域の方々全てが農家で自分たちが直結した受益者であることから集落ごとに分担して**無報酬**で作業する、或いは受益者から賦課金を徴収した資金を以って管理作業に取り組んできました。

現在でもその流れで管理が行われてきた。

問題は

住民の入れ替わりと高齢化による離農と離脱の進行により受益者だけでは管理の限界が来ている、何れは必ず来るということです。

この対策として、**作業労賃をお支払いする**ことで作業の合理的な動機付けになり、出来るだけ多くの地域の方々に水路や猪鹿柵の管理を一緒になってお願いし、農村機能保全の一翼を担っていただく

・ ・ ・ これも＋農



# もう一つの＋農

地区内外組織との連携

移住者で草刈り機が使える方々に呼び掛けて任意組織を立ちあげて頂き、  
自分の都合の良い時間に畦畔の草刈りをして頂く

・ ・ ・ ・ これも＋農

仕事量があれば、自分の仕事仲間（地区内外）に声をかけ数人で作業する

・ ・ ・ ・ ＋農の広がり

# もう一つの十農

## 地区内外組織との連携

中山間地域等直払交付金事業に取り組んでいる山室協定（耕作農家で組織）が、  
各作業組織と管理委託契約を締結し  
直払い交付金を財源として  
管理に必要な資材の提供、作業労賃を支払うこととしました。

こうすることで

領域とか割当とかの義務的概念を取り除き、  
作業に置き換えることで、  
時期が来れば組織の再編も可能になったといえます。

※ 作業労賃は個人ではなく組織に対して支払います、  
これにより組織での一体感が増すのではとの考えからであります。



## 2つの「＋農」の広がり

### 1. 収入を得るための＋農の広がり

園芸作物の作業から入った方々が、水稻の関連作業も行っていただけの  
広がりが出てきました。

具体的には、環境保全型農業の取り組みで酒米の無農薬、無化学肥料で  
の栽培（実需者要求）を約1haで行っておりますが、その圃場の除草作業、  
また水稻の乾燥調製施設（山室）で、施設運転の補助作業といった  
作業の幅が出てきました。

機会があればトラクターの運転もしてみたいという声も聞こえてきます。

近い将来、自分で営農したいという方が出てくる期待が持てます。  
内からの新規就農で、今後就農支援メニューに組み込む必要があります。

# 2つの「＋農」の広がり

## 2. 遣り甲斐としての＋農の広がり

農業を経験し相互に理解を深めた上で、その先の地域のこと、農村農業の事、将来のビジョンのこと等様々な課題、関心事について話し合う機会を持つことができようになりました。作業をしながら、休憩時間、別に時間を取ってなど、気軽に気兼ねなく  
意見交換が出来る環境が作れました。

地域作りにおける当事者意識醸成への＋農の広がりです。

時間がかかる取り組みですが、誘いあい周囲の方々や組織も巻き込んだ話し合いの輪を広げ、コミュニティとしての発展を促す。

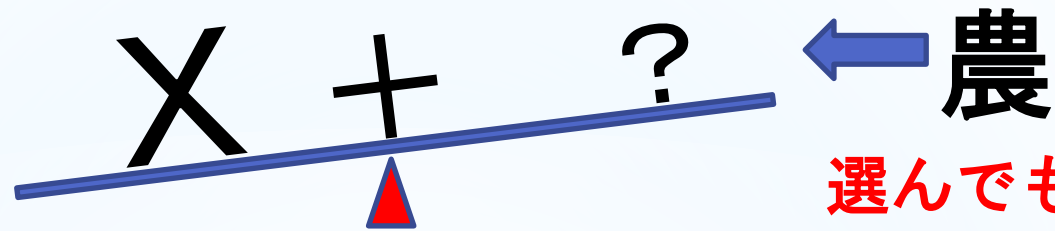
農業を知らない、経験が無くても農村地域に貢献が出来る作業を幅広く  
地域の方々に担って頂くこと、

収入を得るための仕事として「手ごたえのある量」の＋農と助け合いの範疇で適度に合理的な合意での＋農のメリハリのある分担で、  
その先に＋農への理解と広がりを作っていく。



本業

副業

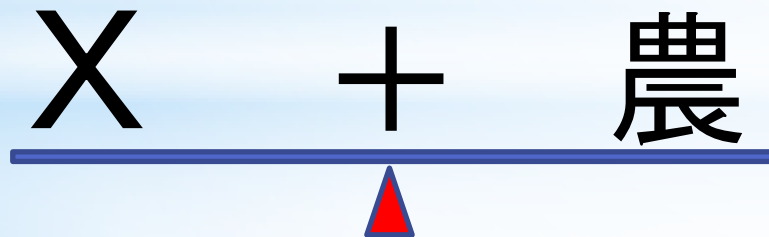


選んでもらえる  
切っ掛け作り

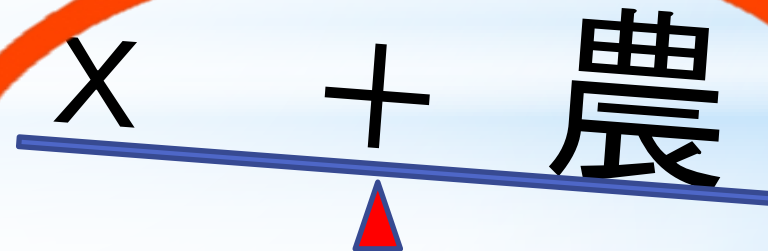
収 入

遣り甲斐

+ 農の広がり による その先



本業の複数化もあり



本副逆転もあり

# 移住・定住者が増える一方

個別のコミュニティが数多く形成されるなど  
地区としての合意形成が難しくなりつつある現状

## 本事業の実施を契機として

新たな地区の在り方を検討・提案し実証することで  
地域ガバナンスの構築、  
コミュニティの連携  
を図り地域の一体感を高めたい



**農村RMO取組**



# 農村RMO とは. . . ～支えあい～

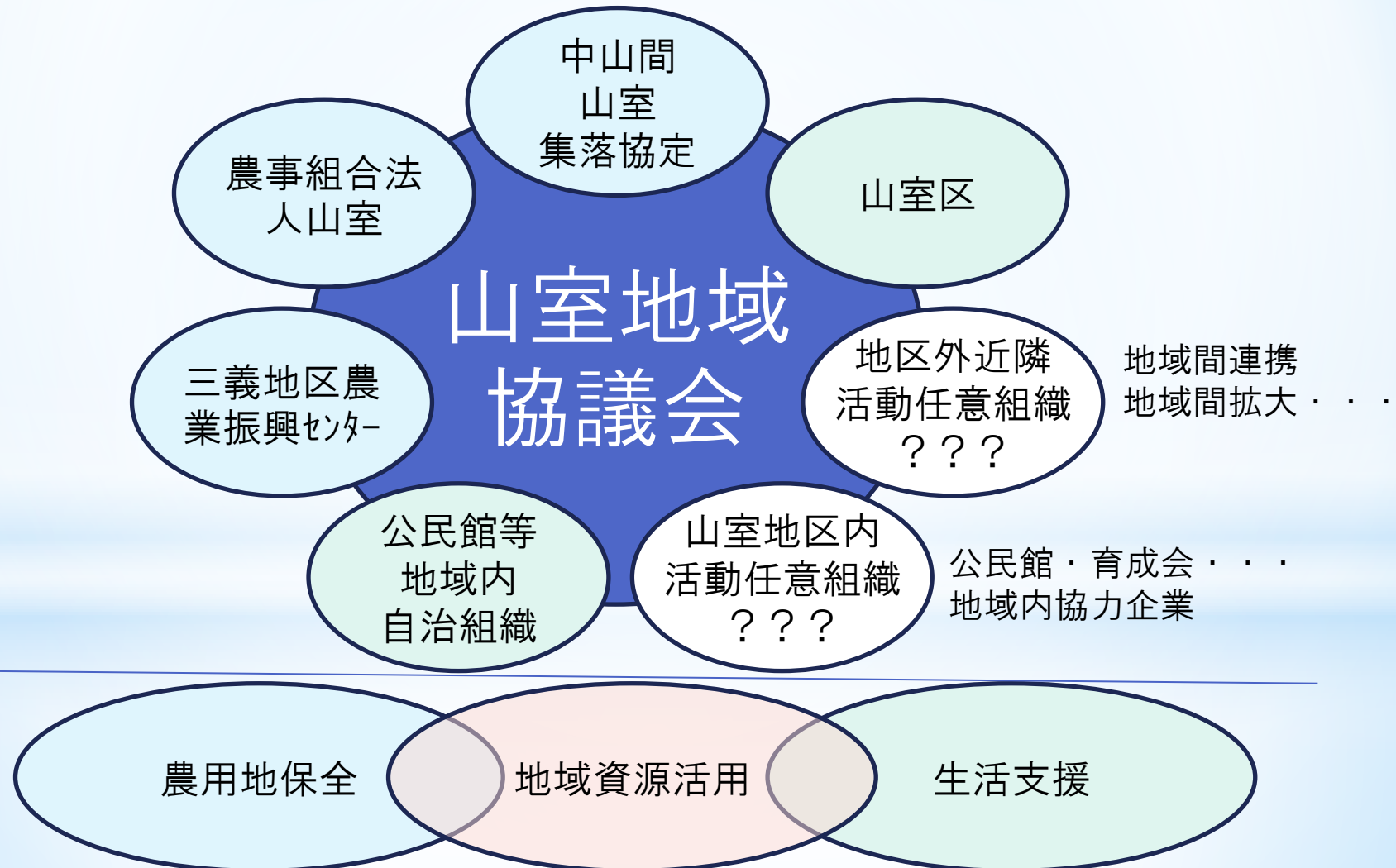
## 農村型地域運営組織

(農村RMO : Region Management Organization)



## 目指す体制：

全てが地域の事と捉えて協議の場を作り  
組織間の活動の相乗効果を発揮する事が出来る体制








農山漁村振興交付金（中山間地農業推進対策）のうち

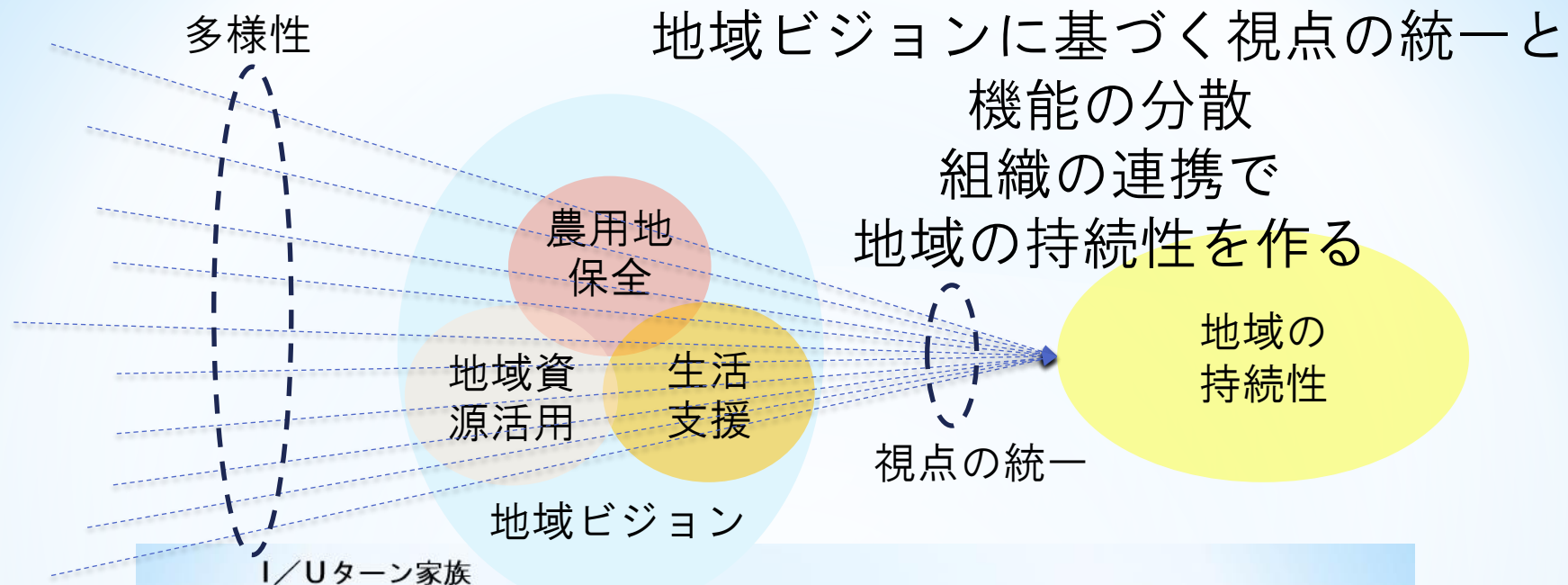
農村型地域運営組織形成推進事業

（農村型地域運営組織モデル形成支援）

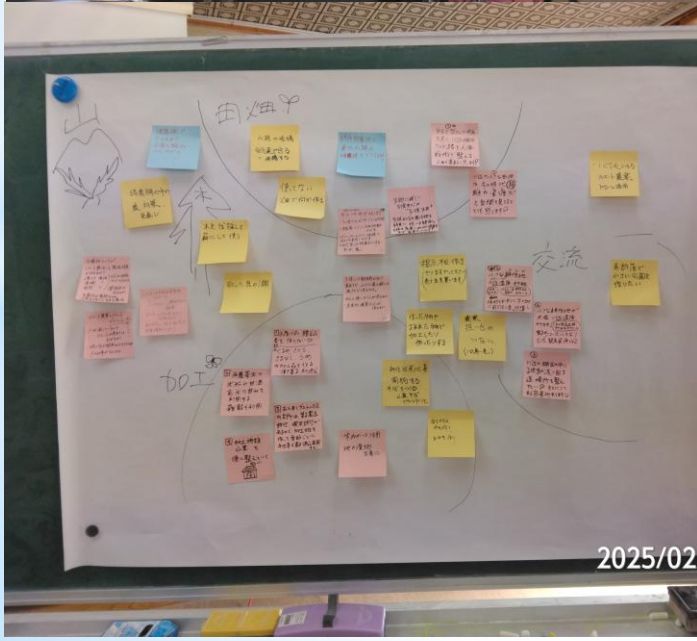
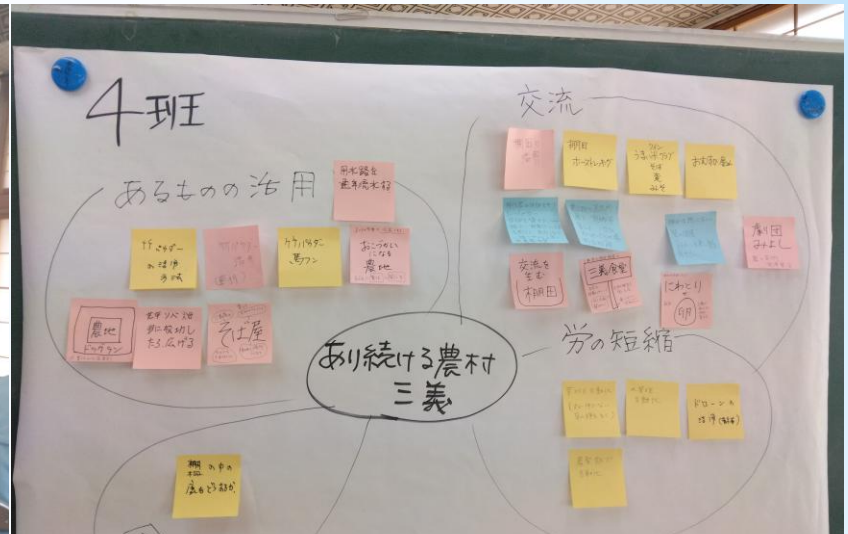
支援期間：3年間（令和6年～令和8年） /1年毎に完結

- （1）地域の将来ビジョン作成  1年目：立ち上げ期
- （2）地域の将来ビジョンに基づく調査・計画策定  2年目：形成期
- （3）地域の将来ビジョンに基づく計画の実現に向けた実証  2、3年目 定着期

※☒デジタル技術の活用







2025/02/15 11:34:28  
伊那市  
長野県

# 地域運営方式

組織名称	ビジョン/目的
三義地区青少年育成会	青少年の健全育成
三義愛の会	高齢者・弱者支援
山室ナッツ	農林産物の研究
山室伝統唐辛子保存会	伝統南蛮保護と活用
炭化事業利用組合	豊かで肥沃な農地再生
山室元気作りの会	放棄竹林の管理
山室そばの会	三義在来蕎麦の保護と普及
ぐるりごはん	多目的施設・コミュニティ運営
水路を守ろう会	農業インフラ整備活で地域保全
農)山室	農村として地域を維持
畑の直売所	地産地消・仲間づくり
高遠くらしごと研究所	資源を生かして暮らしを作る

組織登録

プレゼン  
仲間作り(公募)

担当組織グループ  
実証運営 (KPI・期間)  
企画立案

全組織連絡会  
意見交換  
担当組織グループ 編成

暫定組織グループ  
WS：課題・方式検討

テーマ提案

協議会  
ビジョン管理  
予算管理  
事務局

実証  
反映  
PDCA  
課題

全組織連絡会  
実績意見交換

実績

全組織連絡会  
効果・寄与評価  
自走可能性





# 目指す農業（未来戦略）

1. 環境負荷軽減と経済性

2. 合理化と雇用拡大

3. 関り易さと高度化

3つのバランスが取れた農業で  
「農村」として地域を維持していく

# **1. 環境負荷軽減と経済性**

**減農薬の推進と耕種的防除の取組**

**環境保全型農業直接支払い交付金事業**

**緑肥等肥料の有機資材の自給と活用**



**無農薬・無化学肥料 水田**



## **2. 合理化と雇用拡大**

- ・ 農地フル活用・農地単価の向上
- ・ 農地の保全是水稻、蕎麦を中心に作付け
- ・ 経済性は、園芸・高付加価値農産物の作付け
- ・ 「地消地産」と「+農の切っ掛け」
- ・ 園芸作目の拡大
- ・ 多目的店舗・畑直売所(コミュニティ農園)
- ・ 竹林、雑木林の資源活用的管理→耕作放棄農地対策

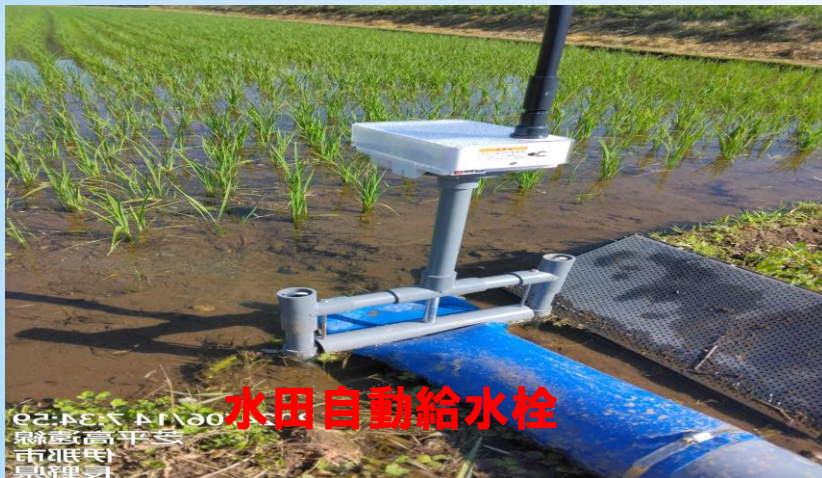


### 3. 関り易さと高度化

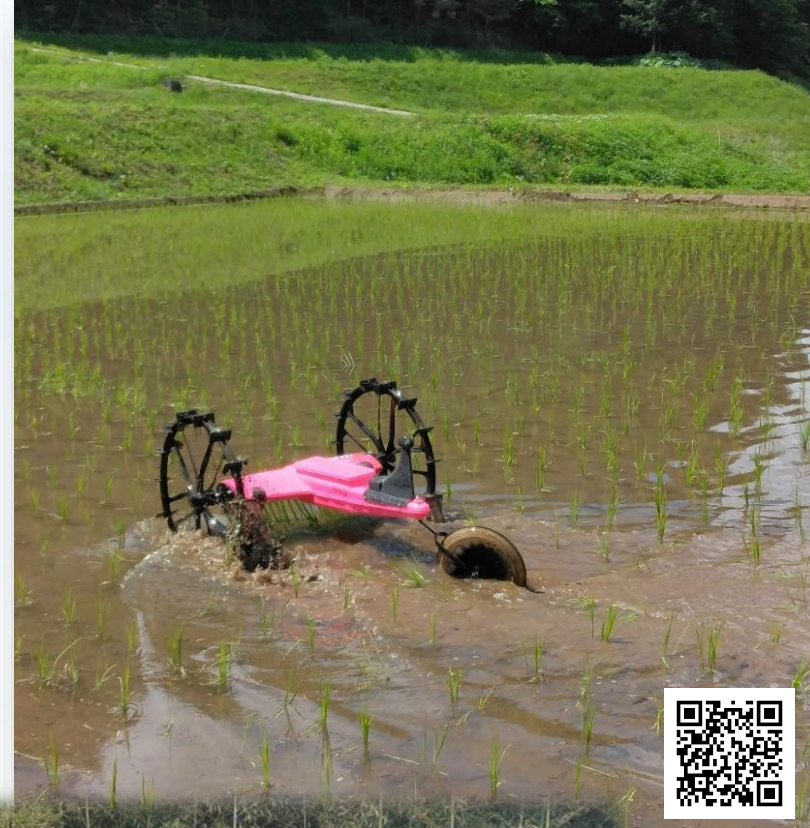
- ・誰でもできる農業への入り口(切っ掛け)  
とその先の広がり
- ・スマート農業の取組と、農業のDX化推進  
自動給水栓・RC草刈機・RC水田抑草機  
生育診断、営農管理システム



今年は1年生、来年は2年生になれる農業









# 集落営農組合への関係機関の支援について

JAも行政・関係機関も地域農業・集落営農の持続可能性を高める

「伴奏者」

常に主体は地域・当事者我々

「何を、何時、どの位…」課題・目標を明示した相談が入口

地域の話し合いでビジョンと課題、何ができるか？

JA・行政・県・関係機関ネットワーク

横の連携をとる協議会・連絡会に相当するネットワークがあり、それを背景として  
相談の中で求める支援の具体化、使える制度や支援先、手順を組み立てる

関係機関から支援を引き出す

関係機関は伴奏者としての影響力を示す

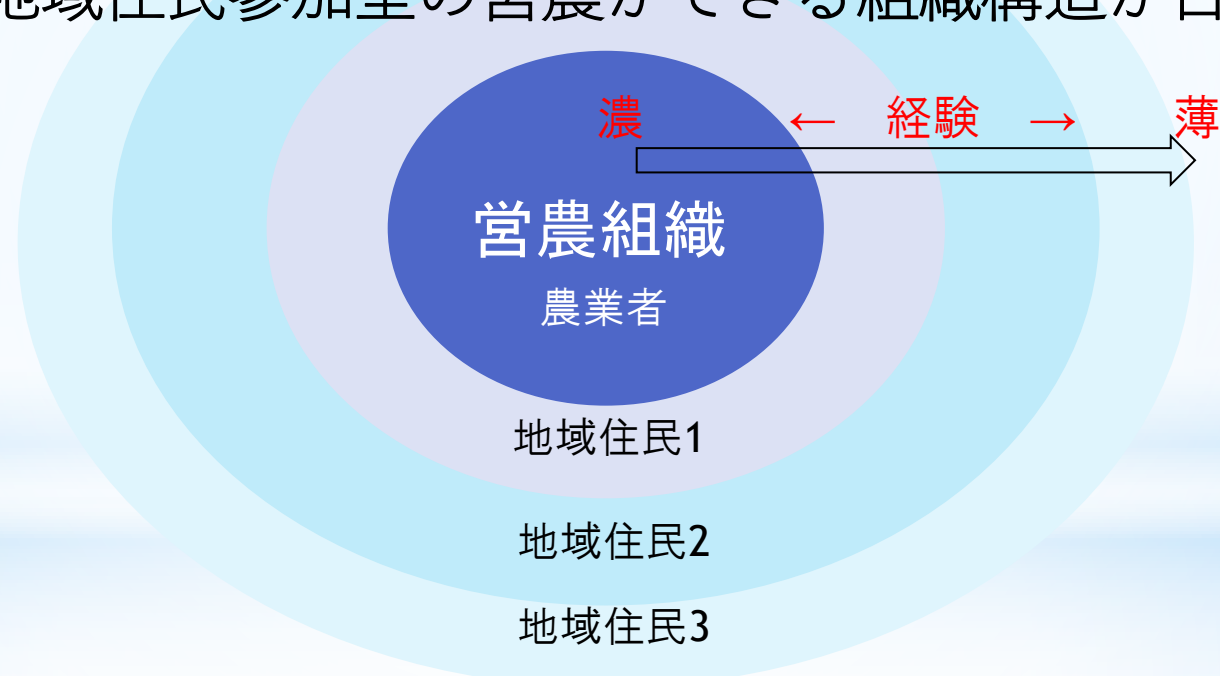
相談窓口の設置、切っ掛けとなる研修会や懇談会などの場作り  
地域イベントへの参加、継続的な訪問や提案など寄り添う姿勢

地域の状況を知る努力



## 次世代に引継ぐことができる集落営農組織とは（まとめ）

住民全てが農業者ではない前提で、住民の協力が不可欠  
自分たちの生活環境が農業によって維持されているという共通認識を持って  
農業インフラの維持、経験が無くても出来る農作業への協力（作業の切り出し）  
農業者による営農組織は核になり、  
外側を地域住民参加型の営農ができる組織構造が目標



集落営農構成イメージ

# 中山間地域における地域活動のポイント

## 山室の場合（活性化より持続性）

地域の事情を理解する

この地域には、何が必要か？話し合う  
この地域の宝は、何か？を探す

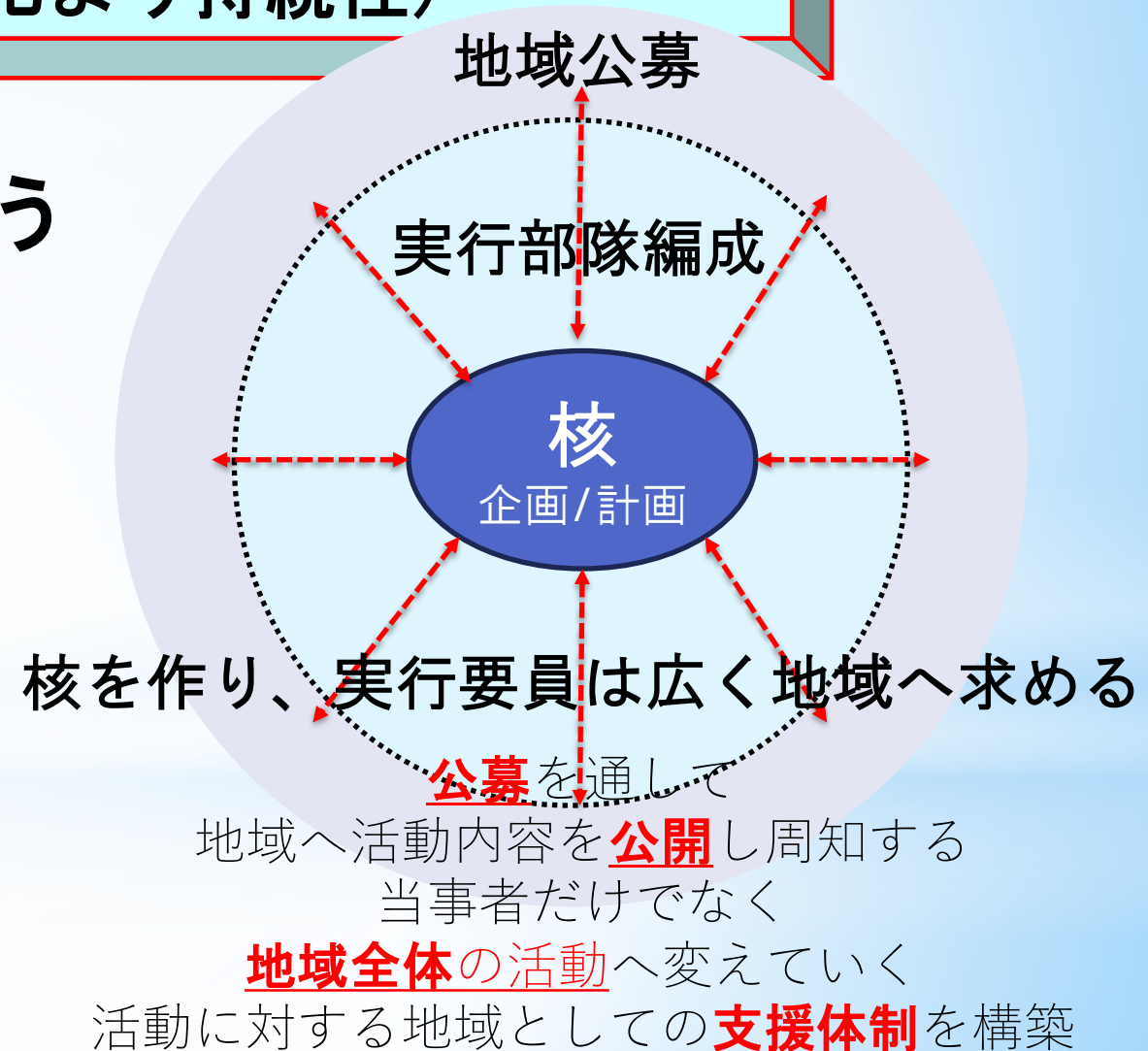
### 場を作る

研修会・体験会・視察・楽しいイベント  
何気ない「寄り合い」

### 地域で動いている何か？を見つける

育て発展させる

組織登録とプレゼンと仲間の公募  
連携と分離、専門化、新たな派生





## 今後の方向

遣り甲斐と魅力を作り、未来への希望が持てる  
地域を維持、発展せていくための手段としての農業

地域の皆が関ることができる農業

安定性、継続性を優先する農業  
環境変化に適応できる農業（スマート・DX化）

**を意識しながら、何が良いのかを常に見つけ続けることが  
目指す農業に向けた終わりのない取り組みと考えています。**



先へ進めることで持続性が担保できる。